虚空蔵山城跡 第3次発掘調査　現地説明会資料

～「水ノ手」周辺の調査～

平成 25 年 9 月　松本市教育委員会

1　はじめに

松本市教育委員会では、殿村遺跡関連調査事業の一環として、平成 24 年度から虚空蔵山城跡の発掘調査を行っております。

今回は、昨年度に引き続き「水ノ手」周辺の調査を行っています。信仰の対象となってきた虚空蔵山に、どのようにして軍事施設である山城がつくられていったか、また、「水ノ手」を最上段とするひな壇状に続く平場群がどのような性格を持っているのか、を明らかにすべく調査を開始しました。

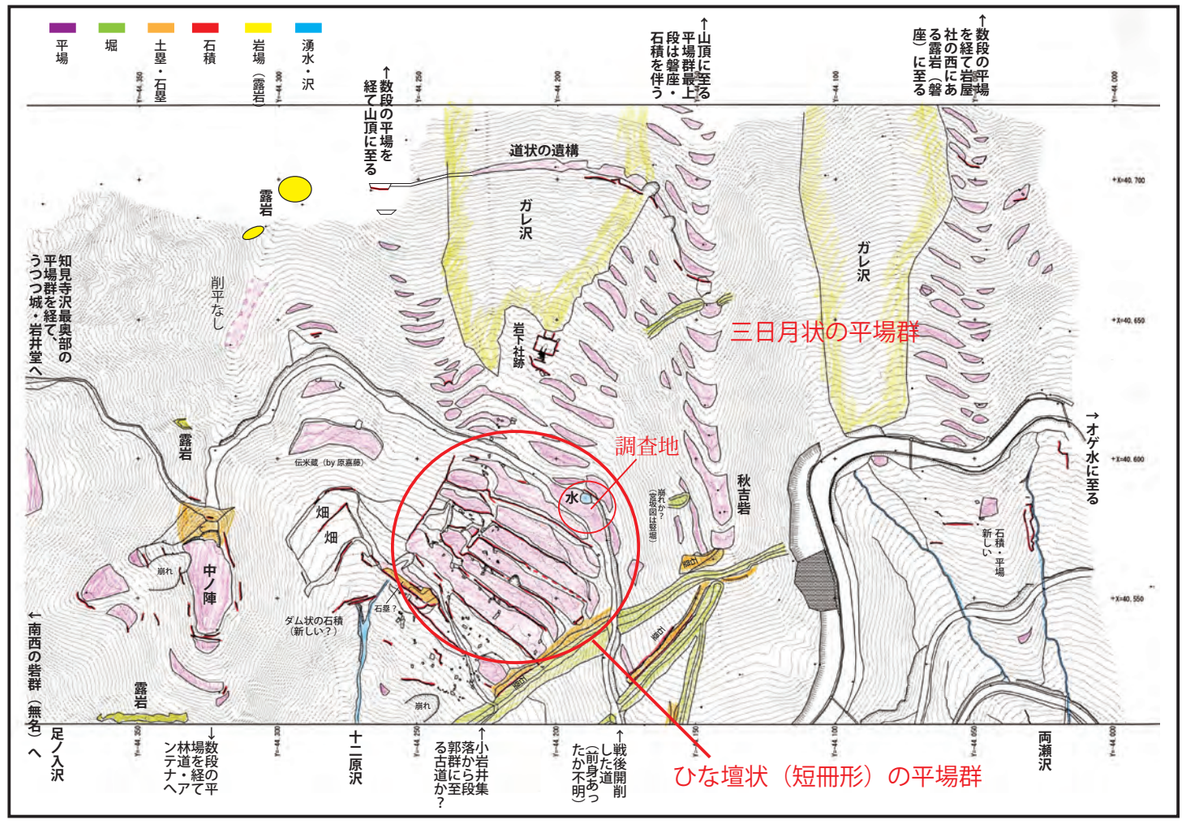
(1) 虚空蔵山

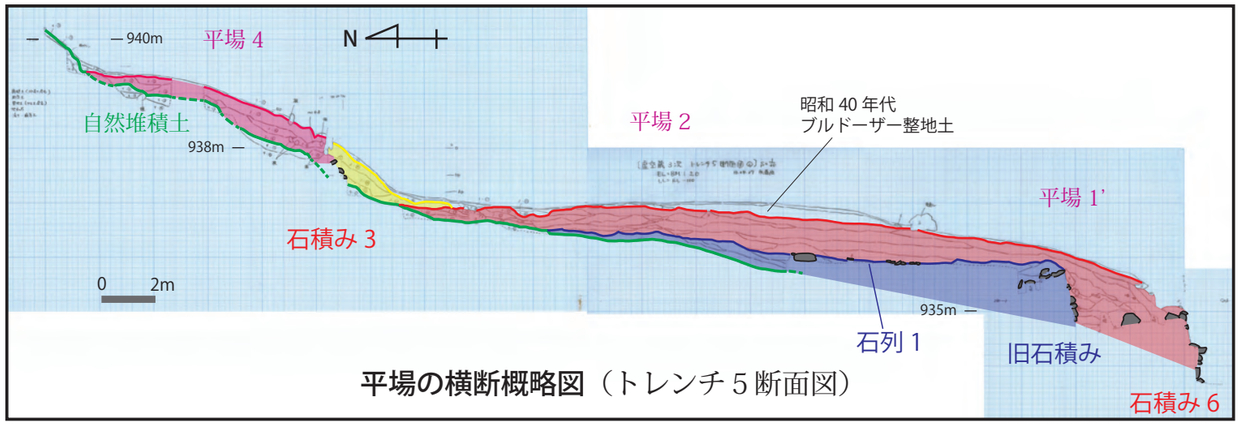
標高 1139 mで、「会田富士」の名で親しまれている美しい山です。山頂や山腹には巨石や湧水があり、その名が示す通り古来より信仰の対象となってきました。南麓周辺には古代・中世に遡る社寺等の宗教施設が多くあります。四賀地区、特に会田地区は虚空蔵山を頂点とする「景観」がつくられ、現在までその姿を残しています。

(2) 第 2 次調査成果

平場は、大規模な造成によって築造されていることがわかりました。平場上からは建物か柵の一部と考えられる柱穴が見つかっています。16 世紀前半の中国産青磁碗・白磁碗、17 世紀前半の瀬戸・美濃産の陶器、土器の皿・鍋、鉄釘などが出土しました。

石積みは高さが 1.5 ～ 2 mで、崩落防止のため、まずは土台となる石をしっかり据えてから積み上げていることがわかりました。また、基底部分の石を他の石より前に出してから上に石を積んでいく、「顎止め石」という技術が用いられています。石積みの背面にはもう一列石を積んで補強していることも明らかになりました。





平場の横断概略図（トレンチ５断面図）

2　発掘調査の目的

(1) 昨年度調査によって、徐々に明らかになってきた石積みを伴うひな壇状の平場群が、どのような性格のものであったか？

(2) ひな壇状の平場群の最上段に位置する「水ノ手」はどのような施設であったか？

(3) 短冊形につくられた平場群と半円形（三日月状）につくられた平場群と、性格・時期に違いはあるのか？

3　調査成果

(1) 地中に埋まった石積みを発見し、少なくとも 3 段階があることがわかりました。

1　旧石積みと石列 1（性格不明遺構）がつくられた段階。

2　旧石積みを埋め、平場を南に拡張した段階。この段階の整地土中から 15 世紀後半～16 世紀前半の土器が出土します。→昨年度調査した石積み６が伴う段階です。

平場を南へ拡張し、南縁に石積み６をつくり、「水ノ手」の背面にも石積み３をつくっています。石積み３はほぼ直線的に伸びていることがわかり、下の平場の石積み６とほぼ同じ軸方向を持っていたことが明らかになりました。この時期、「水ノ手」を整備し、上の平場４もつくっていることがわかりました。

3　「水ノ手」背面の新石積み（石積み３）を埋めて、「水ノ手」周囲を土手状に作り出している段階。平場３もこの段階につくられ、上の平場４へ上るスロープ状になっています。

(2) 平場の特異性が明らかになりました。

・非常に大規模な造成によってつくり出しています。「水ノ手」のある平場２では、幅が約 10m、厚い部分では 1.5 m以上の盛土によって平らな面をつくっています。

・石積みをつくる時と埋める時に、丁寧に土を突き固めて（版築）つくっています。

・出土する遺物の多くが 15 世紀後半～ 16 世紀前半の輸入陶磁器です。

4　おわりに－今後の調査－

今回の調査で、大変な土木工事によって平場がつくられていることがわかりました。これによって、虚空蔵山城跡の中でも大切に使われた、中心的な場所であったと考えられます。

また、虚空蔵山の歴史にせまる多くの点も示唆してくれました。

●「水ノ手」には豊富な湧水はなかった？→「水ノ手」を中心としてつくられた平場群ではない？

● 多くの土をどこからもってきたのか？→周辺の斜面の削平だけでは土が足りない？

● 戦国時代末期（16 世紀後半）の遺物が出土しない。→虚空蔵山一帯（「水ノ手」周辺の平場群）の使用目的が変化した？

以上のように、まだまだ解明すべきことが多いですが、着実に虚空蔵山城跡の歴史を明らかにしていきます。今後も、殿村遺跡調査関連事業にご理解とご協力を宜しくお願いします。

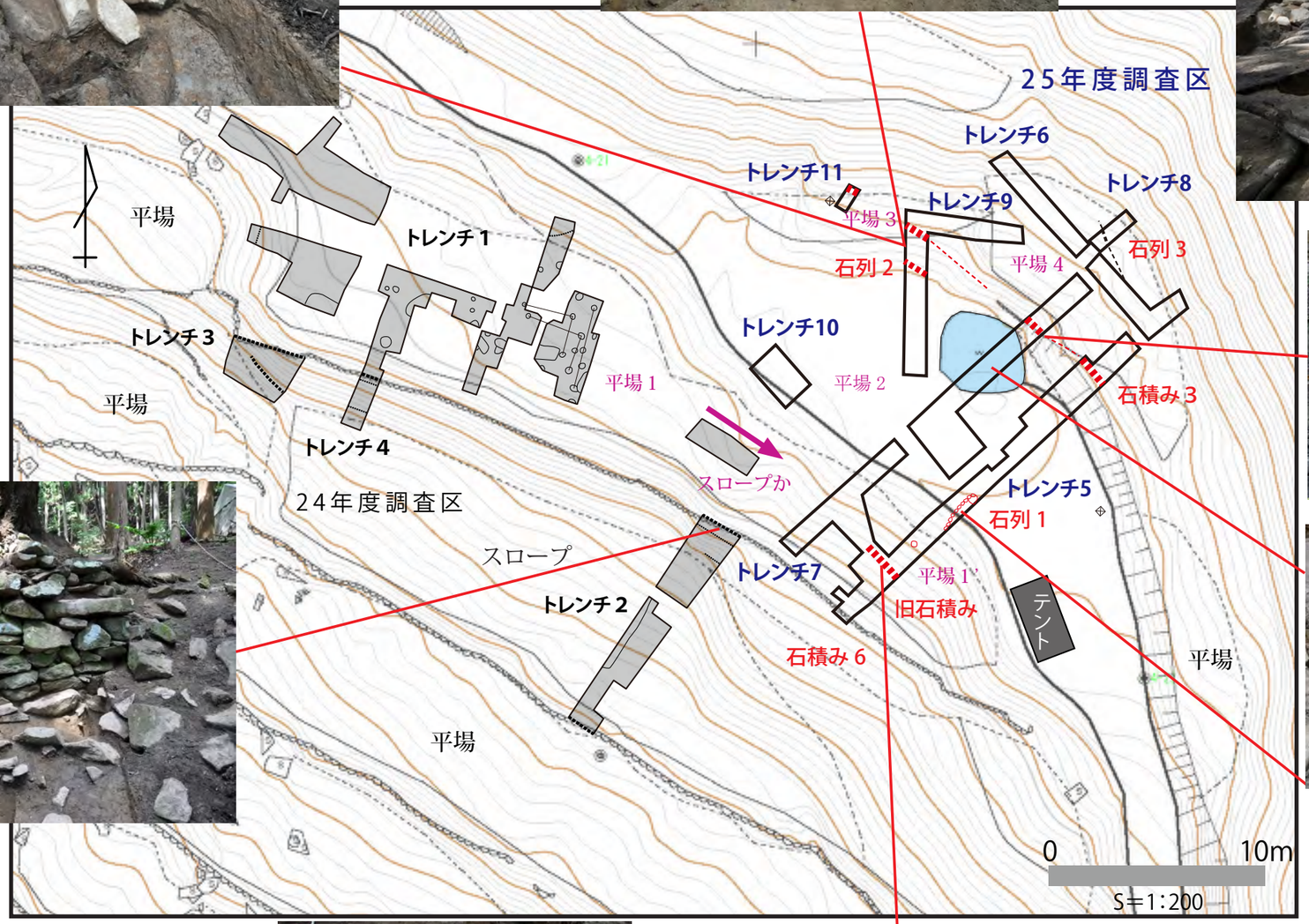
お問合わせ：松本市教育委員会 文化財課　TEL　0263-85-7064　　FAX：0263-86-9189

←トレンチ 11 の
石積み 3 と石列 2

平場の造成によって埋められていました。

また、石積み前には盛土と石を並べて高まりをつくり溝状にしてあります。

「水ノ手」に水を集める導水路のようなものか？



↓トレンチ 2 の石積み 6

昨年度調査した石積みです。平たい石を横長に積んでいる部分が多くなっています。基底部分には石を前にせり出させている「顎止め石」があります。

←「水ノ手」背面の
石積み 3

平石が多くなり石の選別があるようです。最終段階で埋められてしまっているため、石積みの残りは非常に良好です。

←「水ノ手」は落ち葉や枝が堆積しており、お皿状にくぼんでいました。

現在は豊富な湧水ではなく、当時も水を溜めておく施設だったかもしれません。

↑ 殿村遺跡 石積み A

山麓の殿村遺跡の石積みと、今回出土した旧石積み、石積み 3・6 でそれぞれ顔付きが違います。比較検討することによって、この地域の石積み技術の発展が明らかになります。

↑ 旧石積みの後側の整地の様子

丁寧に土をつき固めて石積みの後側を造成しています。かなり固く叩きしめています。

← 発見された旧石積み

埋もれた石積みを発見しました。現在見えている石積み 6 とは積み方に違いがみられます。また、石の並びも乱雑で、あまり見た目を意識してないようにも思えます。

積まれてからすぐに埋められてしまった可能性もあります。

↑ 建物の基壇？　石列 1

現地表面から約 1 m下に、古い段階の遺構を検出しました。

小さな平石を並べています。小さな建物の基壇になるものでしょうか。